

化学物質の安全管理に関する  
シンポジウム  
—これまでを振り返って—

金沢工業大学客員教授  
(一社)産業環境管理協会技術顧問  
加藤 順子

# 化学物質連携施策群

## 科学技術連携施策群

各府省が実施する関連施策の連携強化や研究内容の重複排除などの調整活動を行うことで、予算を効率的に活用し、関連施策の成果の最大化を図る

## 化学物質連携施策群

「**総合リスク評価による化学物質の安全管理・活用のための研究開発**」(平成19-21年度)

- ICCM(International Conference on Chemical Management)のWSSD目標「**化学物質の製造と使用による健康や環境への悪影響を2020年までに最小化する**」実現のためのSAICM (Strategic Approach to International Chemicals Management) 採択(平成18年2月)
- 欧州における**REACH規則の施行**(平成19年6月)
- ◆ **世界で使える適性管理システムの研究開発が必要**

# 化学物質連携施策群の研究目標

- 研究目標1:「化学物質の有害性データと暴露データを十分に取得し、化学物質のライフサイクル全体でのリスク評価を実現する」
- 研究目標2:「資源を有効活用しつつ、化学物質のトータルリスクを最小にする社会システムの形成に役立つ適正管理手法の研究開発を推進する」
- 研究目標3:「環境問題の発生を未然に防ぐ国際基準の作成や規制の枠組み作りに積極的に国際貢献する研究開発を推進する」

# 平成19-21年度

化学物質連携施策群の成果発表の場  
「化学物質の安全管理に関するシンポジウム」

平成19年度：総合的リスク評価による化学物質の安全管理・活用に対する各省の取り組み

平成20年度：化学物質管理におけるリスクーベネフィット

平成21年度：化学物質管理による『安全』と『安心』

# 平成22年度以降

実行委員会形式でシンポジウムを継承

「化学物質の安全管理に関するシンポジウム実行委員会」

実行委員長：安井至先生（NITE）

世話役：内閣府、科学技術・イノベーション、グリーンイノベーショングループ

委員：約15名

各府省担当者（内閣府、厚労省、経産省、環境省、  
国交省）

専門家（国衛研、NITE、国環研、産総研、土木研、  
大学、企業）

# 平成22年度～27年度

平成22年度：製品評価技術基盤機構

- 化学物質のリスク評価と今後の課題

平成23年度：国立環境研究所

- 新しい化学物質等のリスク問題へのアプローチ

平成24年度：産業技術総合研究所

- 政策におけるリスク評価の利用とさらなる活用に向けた課題

平成25年度：製品評価技術基盤機構

- 化学物質のリスク評価の最新動向と今後の課題

平成26年度：国立環境研究所

- 化学物質規制における新たな課題と背景

平成27年度：産業技術総合研究所

- ??????????

# 近年の化学物質管理の広がり

- 管理スコープの広がり  
例：ライフサイクルや資源管理を通じたリスク管理
- 新たなチャレンジ  
例：複合暴露のリスク評価
- 新たなエンドポイント  
例：内分泌かく乱、次世代影響、神経発達毒性
- 新たなタイプの化学物質  
例：ナノマテリアル
- 新たな有害性評価手法  
例：in vitro試験、QSAR、トキシコゲノミクス、AOP、IATA

# シンポジウムの役割とこれから

- 産・官（関係府省、公的研究機関）・学、等が参加  
情報共有、意見交換、人脈形成
- これまでのシンポジウムはおおむね好評  
今後も続けてほしいという意見多数
- 平成28年以降も継続するか？

## 本日のシンポジウム

# 「化学物質規制における新たな課題と背景」

- 環境中に存在する化学物質のリスク評価の現状と今後の課題
- 化学物質管理に係るアジア協力とNITEの役割
- 国際資源循環と化学物質リスク
- 複合暴露リスク評価への取り組み
- 下水道における化学物質の消長とその影響評価の取り組み
- 化学物質リスクを評価するための病理学の重要性
- 総合討論